

別紙様式3

平成29年度 第1回 地域連携による活力ある高校づくり推進事業協議会 議事要旨

日 時	平成29年 5月15日(月) 生徒の様子を見学後会議を実施
場 所	東濃高校 会議室
出席者 (敬称略、 委員名は 50音順)	<p>(委員)</p> <p>衛 紀生 可児市アーラ館長 各務 眞弓 NPO法人可児市国際交流協会事務局長 鍵谷 欣弘 学校評議員(東海化成工業総務人事課) 籠橋 義朗 可児市教育長 嶋崎 友美 東濃高校PTA会長 高木 俊朗 御嵩町教育長 田中 妙子 学校評議員(地域代表(税理士)) 棚瀬 哲 御嵩町立上之郷小学校長 日比野安平 美濃加茂市教育長 堀 勝弘 御嵩町立向陽中学校校長 渡邊 公夫 御嵩町長、東濃高校同窓会長</p> <p>(高校)</p> <p>平井 学 校長 片山 澄美 教頭 林 靖 教頭 林 博志 事務長 吉田 益穂 教務主任 大島 直人 生徒指導主事 三田村隆広 進路指導主事</p> <p>(県教育委員会)</p> <p>堀 貴雄 教育総務課教育主管</p>
議事概要	<p>1 今年度の教育目標及び指導の方針と重点について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「あじみのできる東濃高校をつくる(挨拶の励行、時間を守る、身なりを正す)」を合い言葉に指導を行っている。 ・ 広報活動として、幼保小中学校への英語指導補助としての外国人生徒の派遣、学校の開放、高校HPの充実、広範囲な広報媒体の活用を考えている。 ・ 地域連携による活力ある高校づくり推進事業では「演劇表現WS(ワークショップ)とキャリア教育プログラム」を実施する。なお、演劇表現WSについては、4月に第1回目を実施した。生徒のアンケートから、多くの生徒がこのWSの意図を理解していると考えられる。 ・ 1年次に演劇表現WSとキャリア教育プログラムを通じてコミュニケーション能力を高め、2年次・3年次に個別にその能力を磨いていく。 <p>2 授業見学の感想について(学校への要望について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生の進路相談会を見学し生徒の真剣な表情に感心した。こういった姿を外部にアピールすることが大切である。生徒も見ってもらうことによって成長する。

- ・ 生徒は、高校へ進学後、よく勉強するようになった。高校は変われることができるチャンスの場合である。そういった生徒への支援をお願いしたい。
- ・ 今年は挨拶を返してくれる生徒が増えてきている。挨拶は「人としての原点」だと思う。自然に挨拶ができる生徒を育ててほしい。

3 演劇表現WS、キャリア教育プログラムについて

- ・ 演劇表現WSやキャリア教育プログラムと単位制という制度を生かして、特色ある校風を作ってほしい。
- ・ 演劇表現WSの効果は文部科学省で評価されている。こういった取組を身近な地元の方々にも知らせていけるとよい。
- ・ 演劇表現WSは、自分の居場所を見つけたりクラスの仲間づくりに役立ち、東濃高校の再建に貢献できたと考えている。文部科学省からも「東濃方式」として、評価されている。
- ・ 就職活動について、外国人の方は保護者を含めてよく知らない人が多いと感じる。キャリア教育に力を入れることは大切である。フレビアでも企業の主催するワークショップを開催する予定である。昨年度グローバルキャンプには2名の東濃高校生が参加したが、今年度も参加してほしい。

4 その他

- ・ 月刊「東濃高」は学校の状況がよくわかるのでこれからも続けて欲しい。東濃高校の外国人の持つ語学力を小中学校で生かせるようなことを企画する予定でいる。
- ・ 放課後の子ども教室で英語学習を行っているが、これも特色ある学校にしていく方法の一つである。小規模校としては生き残りをかけて外部にPRする必要がある。
- ・ 東濃高校の卒業生で上之郷に住んでみえる丹羽先生は素粒子の世界的研究をされている。こういった卒業生の存在を生徒だけでなく一般の方々にも広めるとよいのではないか。何かに秀でた生徒を育てられるとよい。